REPORT 2

後継者問題の現状 ―寺院規模の観点から―

- 寺院の「後継者の有無」は、寺院規模（檀家数）との相関関係が認められる
- 小規模寺院にみられる「後継予定者がいない」場合の「諦観」

宗勢調査では「あなたの寺院には、後継予定者がいますか」の質問により、それぞれの寺院に現時点で後継（予定）者がいるかどうかをたずねている。全体の集計結果では、「いる」の割合が58.1%、「いない」は35.6％となっている。なお、平成16年度調査では、それぞれ60.1％、35.5％であった。

ここでは、寺院規模と、後継者の有無や今後の対応との関係について考察を試みる（本報告書では檀家数を寺院規模を示す指標として用いる）。

寺院規模と後継者

寺院規模（檀家数）と後継予定者の有無のクロス集計（表2-①）

檀家数	後継予定者の有無	
	いる	いない
なし	28.9%	64.4%
1～ 10戸	41.9%	54.3%
11～ 30戸	44.3%	50.0%
31～ 50戸	50.2%	42.6%
51～100戸	56.9%	35.8%
101～150戸	69.7%	25.9%
151～200戸	67.3%	25.7%
201～300戸	70.2%	24.2%
301～400戸	68.9%	23.0%
401～500戸	78.9%	16.7%
501戸以上	67.8%	25.0%
全体合計	58.1%	35.6%

※501戸以上はサンプル数が少ないため合算した

寺院の「後継予定者の有無」を寺院規模別に見ると、檀家数が30戸以下の寺院では、後継者が「いる」が50%を下回っている。「31～50戸」では、50.2%となり、以後寺院規模が大きくなるほど後継者がいる割合が高くなる傾向にあり、「101～150戸」からは70%前後の値を示している。後継者が「いない」の全体平均は35.6%だが、檀家数100戸以下でそれを上回り、とくに30戸以下では50%を超える。後継者の有無は寺院規模と明白な相関関係が認められると言えよう。

寺院規模でみた「後継者がいない」ことへの対応

「後継者がいない」と回答したのは、全体合計で1377人の住職である。この人数を分母とし、「後継者がいない」ことへの今後の対応を聞いたところ、「その他」を除いた回答の上位4つを占めたのは、それぞれ①「まだ考えていない」(35.2%)、②「代務寺にしてもらう」(12.7%)、③「弟子をとる」(10.7%)、④「廃寺もやむを得ない」(5.0%) であった。

この上位４つの対応の回答と「檀家数」とをクロス集計したのが次の表である。

寺院規模（檀家数）と後継者への対応のクロス集計（表2-②）　1位回答　2位回答

檀家戸数	後継者がいないことへの対応（上位4回答）			
	まだ考えていない	代務寺にしてもらう	弟子をとる	廃寺も止むを得ない
なし	30.2%	15.5%	1.7%	24.1%
1～ 10戸	28.5%	20.8%	4.9%	9.7%
11～ 30戸	32.5%	21.1%	4.4%	6.6%
31～ 50戸	35.3%	22.8%	10.9%	2.2%
51～100戸	31.9%	10.0%	14.6%	2.3%
101～150戸	43.8%	4.6%	14.6%	0.0%
151～200戸	34.8%	1.1%	17.4%	1.1%
201～300戸	45.5%	2.0%	14.1%	0.0%
301～400戸	44.6%	1.8%	23.2%	0.0%
401～500戸	26.3%	0.0%	36.8%	0.0%
501戸以上	39.5%	0.0%	2.6%	0.0%
全体合計	35.2%	12.7%	10.7%	5.0%

「代務寺にしてもらう」は全体では12.7％ではあるが、檀家数50戸以下の寺院に於いては、20％を超えている（檀家数「なし」を除く）。また、寺院規模が大きくなるにつれ、減少傾向が顕著である。

「弟子をとる」は全体では10.7％であるが、10%を超えるのは31戸以上であり、「代務寺にしてもらう」とは逆に、寺院規模が大きくなるにつれ、増加傾向が認められる（「501戸以上」を除く）。檀家数30戸以下の寺院では５％を切っており、小規模寺院に於いては、「弟子をとる」こと自体が困難である実状がうかがえる。

「廃寺も止むを得ない」は全体では５％であるが、小規模化するにつれ数字が大きくなり、檀家数「なし」では４ヶ寺に１ヶ寺が「廃寺もやむを得ない」と答えている。

「まだ考えていない」は、全体で35.2％と最も多い回答であった。檀家数の多寡との顕著な相関関係は認められないが、同一の選択肢が選ばれていても、寺院の規模によってその意味するところが異なるであろうことは想像に難くない。

なお、「501戸以上」の寺院に於いては、「まだ考えていない」の回答割合が最も高かったが、以下、「その他」26.3%、「無回答」23.6％と続いた。